

かわら版

相澤病院
医療連携

患者さんに
役立つちょっと
いい話

2023.9 NO.23



健康診断や病院での検査結果をもらっても何が何だかわからない。これって何を調べてるの？健康診断で要精査だったけど、どうしたら良いかな？これを見れば良く分かります。健康な身体維持に役立てましょう。

保存版！気になる血液検査結果。

血液検査では多くの異常がわかります。貧血、肝臓の異常、腎臓の異常、高脂血症、糖尿病などの病気の発見に役立ちます。それぞれ体内でどんな役割をしているかなど、検査の一部をご紹介します。

TP（総タンパク質）・・・肝機能

総たんぱく質は、血液中に100種類以上存在しているたんぱく質の総和を調べる検査です。食べ物から摂取したたんぱく質は、身体の細胞に運ばれて、エネルギー源となったり新陳代謝に利用されたりします。血液中のたんぱく質の量を調べることは、身体の栄養状態や肝臓や腎臓が正常に機能しているかどうかを知るのに役立ちます。

ALB（アルブミン）・・・肝機能

血清蛋白の半数以上を占めるアルブミンは、病気などで栄養状態が悪化すると減少するため、健康診断のスクリーニングとして大きな意味があります

γ-GT（ガンマ-GT）・・・肝機能

たんぱく質を分解する酵素の一種。飲酒量が多いときや胆道系の病気などで上昇し、肝機能の指標とされます。

血液中のγ-GTを検査することで、アルコール性肝機能障害・胆道の圧迫や閉塞・肝硬変・慢性肝炎などの早期発見が可能になります。

最近アルコールとは無関係に、栄養過剰や肥満がもとでγ-GTやGPTが上昇する、非アルコール性脂肪肝、非アルコール性脂肪性肝炎といわれる病気が注目されています。

AST、ALT・・・肝機能

これらが基準値を超えると、脂肪肝・急性肝炎・慢性肝炎が疑われます。ASTは心臓や筋肉に多いため、ASTの上昇が顕著な場合は、心臓の病気や筋肉の病気の可能性もあるため、他の項目と合わせて総合的に診断します。

検査内容がわかれば安心ですよ。



LDL-C・・・コレステロール・脂質

肝臓で作られたコレステロールを全身へ運ぶ役割をしており、増えすぎると動脈硬化を起こして心筋梗塞や脳梗塞をおこす、悪玉コレステロール。高血圧、狭心症などの原因にもなります。

HDL-C・・・コレステロール・脂質

血管の壁に溜まったコレステロールを回収して肝臓に戻す役割があります。コレステロールを滞りなく全身に行き渡らせるために重要な役割を担います。HDL コレステロールは、血液中にコレステロールが蓄積されるのを防ぎ、動脈硬化を予防してくれるため、「善玉コレステロール」とも言われます。

血小板・・・血液一般

出血を止める働きがあります。数値が低い場合は、白血病や肝硬変が疑われますが、高い場合は鉄欠乏貧血や出血などが考えられます。

Hb (ヘグ ピン)・・・血液一般

ヘモグロビンは、血液中の赤血球の赤い色素のことです。赤血球の働きのなかでも重要な役割があり、ヘモグロビンの検査は、血液中のヘモグロビンの濃度を調べるものです。数値が低い場合貧血または出血が疑われます。逆に数値が高いと多血症と診断される場合があります。

HbA1c (ヘグ ピン イワツツ)・・・糖尿病

検査をした際の過去 1 ～ 2 ヶ月前の平均的な血糖の状態が分かる検査です。糖尿病の診断や血糖値のコントロールの状態が分かります。血糖値と異なり検査当日の食事の影響を受けにくい検査です。

UA・・・尿酸

タンパク質の一種であるプリン体を代謝した際にできる老廃物です。尿酸値が高い場合を、高尿酸血症といいます。高い状態が続くと、結晶として関節に蓄積していき、突然関節痛を起こします。これを痛風発作といいます。また、尿路結石も作られやすくなります。

BUN・・・尿素窒素

体内でエネルギーとして使われたタンパク質が分解される時にできる老廃物です。

血液中の尿素窒素は、腎臓でろ過されて尿として排出されます。一方で、腎臓の機能に問題がある場合は、ろ過しきれない分が血液中に残るため、血液中の尿素窒素の量が増えます。尿素窒素が基準値よりも高い場合は、腎炎など腎機能の低下などが疑われます。また、尿素窒素が低い場合は、低栄養状態、肝炎、妊娠などが考えられます。



CRE (クレアチン)・・・腎機能

クレアチンとは、筋肉を動かすためのエネルギーを使った後に出てくる老廃物の一つです。身体にとって不要なもので、尿として体の外に出ていきます。腎臓の機能が悪くなるとクレアチンが身体の中に溜まり濃度が高くなります。クレアチンの血液中の濃度を測定して腎臓が現在どのくらいの能力があるかを推測することが出来ます。

WBC・・・白血球数

白血球は細菌などから体を守る働きをしています。数値が高い場合は細菌感染症にかかっているか、炎症、腫瘍の存在が疑われますが、どこの部位で発生しているかはわかりません。たばこを吸っている人は高くなる場合があります。

CRP・・・炎症反応検査

体内で炎症が起きたり組織細胞に障害が起こると上昇します。炎症が起こったときに、24 時間以内に急増し、2～3 日後には減少するので、炎症の早期診断に役立ちます。

